

第151回 日商簿記検定試験 2級 一工業簿記一 解説

模範解答・予想配点・解説等は、学校法人高橋学園が独自の見解によって作成しており、検定試験実施機関における本試験の解答並びに出題の意図を保証するものではありません。なお、予告なしにその内容を変更する場合がございます。ご理解いただいたうえで、ご利用ください。

第4問 部門別計算

(1) 修繕部費予定配賦率：5,600,000円(修繕部費年間予算)÷1,400時間(年間予定修繕時間)＝**4,000円/時間**

(2) 製造部費予定配賦率

① 年間予算部門別配賦表

(単位：円)

費目	合計	製造部門		補助部門
		第一製造部	第二製造部	修繕部
部門費	88,000,000	45,600,000	36,800,000	5,600,000
修繕部費	5,600,000	2,400,000	3,200,000	
製造部門費	88,000,000	48,000,000	40,000,000	

② 第一製造部費予定配賦率：48,000,000円÷8,000時間(年間予定機械稼働時間)＝**6,000円/時間**

③ 第二製造部費予定配賦率：40,000,000円÷20,000時間(年間予定機械稼働時間)＝**2,000円/時間**

(3) 製造部費予定配賦額

① 第一製造部費：6,000円/時間(予定配賦率)×690時間(当月実際機械稼働時間)＝**4,140,000円**

② 第二製造部費：2,000円/時間(予定配賦率)×1,720時間(当月実際機械稼働時間)＝**3,440,000円**

(4) 当月の修繕部費の配賦差異

① 修繕部費予定配賦額：4,000円/時間×124時間(当月実際修繕時間)＝496,000円

② 配賦差異：502,200円(実際修繕部費)－496,000円(修繕部費予定配賦額)＝**6,200円(借方差異)**

(5) 第一製造部費の配賦差異

① 実際第一製造部費：3,957,000円＋ $\frac{4,000\text{円/時間} \times 52\text{時間}}{208,000\text{円}}$ ＝4,165,000円

② 配賦差異：4,165,000円－4,140,000円(第一製造部費予定配賦額)＝**25,000円(借方差異)**

第5問 等級別総合原価計算

(1) 等価比率の算定

① 積数

等級製品 X : 3 (等価係数) × 6,000 枚 (完成品量) = **18,000 枚**

等級製品 Y : 1 (等価係数) × 2,000 枚 (完成品量) = **2,000 枚**

② 等価比率

等級製品 X : 18,000 枚 ÷ 20,000 枚 (合計) = **90%**

等級製品 Y : 2,000 枚 ÷ 20,000 枚 (合計) = **10%**

(2) 当月月末仕掛品原価および完成品総合原価の算定

① 直接材料費

700,000 円	月初仕掛品 1,000 枚	完成品 8,000 枚	(貸借差額) 6,300,000 円
7,200,000 円	当月投入 10,000 枚 9,000 枚	正常仕損品 1,000 枚 月末仕掛品 2,000 枚	1,600,000 円
<u>7,900,000 円</u>			<u>7,900,000 円</u>

仕損費の負担計算方法は度外視法であるため、仕損費は計算しない。仕損は途中発生であるため、完成品と月末仕掛品の両方で仕損費を負担する (加工費も同じ)。

$$\frac{7,200,000 \text{ 円}}{9,000 \text{ 枚}} \times \frac{2,000 \text{ 枚}}{\text{月末数量}} = \frac{1,600,000 \text{ 円}}{\text{月末仕掛品原価}}$$

$$\frac{7,200,000 \text{ 円}}{\text{投入原価}} - \frac{1,600,000 \text{ 円}}{\text{月末仕掛品}} + \frac{700,000 \text{ 円}}{\text{月初仕掛品}} = \frac{6,300,000 \text{ 円}}{\text{完成品総合原価}}$$

② 加工費

900,000 円	月初仕掛品 500 枚	完成品 8,000 枚	(貸借差額) 12,900,000 円
13,600,000 円	当月投入 9,000 枚 8,500 枚	正常仕損品 500 枚 月末仕掛品 1,000 枚	1,600,000 円
<u>14,500,000 円</u>			<u>14,500,000 円</u>

(注) 正常仕損については、途中発生 (発生点不明) であるため、便宜的に加工進捗度を50%としている。

$$\frac{13,600,000 \text{ 円}}{8,500 \text{ 枚}} \times \frac{1,000 \text{ 枚}}{\text{月末数量}} = \frac{1,600,000 \text{ 円}}{\text{月末仕掛品原価}}$$

$$\frac{13,600,000 \text{ 円}}{\text{投入原価}} - \frac{1,600,000 \text{ 円}}{\text{月末仕掛品}} + \frac{900,000 \text{ 円}}{\text{月初仕掛品}} = \frac{12,900,000 \text{ 円}}{\text{完成品総合原価}}$$

③ 月末仕掛品原価および完成品総合原価

月末仕掛品原価 : 1,600,000 円 (直接材料費) + 1,600,000 円 (加工費) = **3,200,000 円**

完成品総合原価 : 6,300,000 円 (直接材料費) + 12,900,000 円 (加工費) = **19,200,000 円**

(3) 等級製品の完成品単位原価の算定

① 等価比率にもとづく按分額

<u>19,200,000円</u>	等級製品 X : 90%	⇒(按分額)	17,280,000円
完成品総合原価	等級製品 Y : <u>10%</u>	⇒(按分額)	1,920,000円
	合 計 : <u>100%</u>		

② 完成品単位原価

等級製品 X : 17,280,000円 ÷ 6,000枚 = **2,880円/枚**等級製品 Y : 1,920,000円 ÷ 2,000枚 = **960円/枚**